

PREX NOW



途上国と関西をつなぐ VOL.250

特集：帰国研修員と訪問先企業

みんな
今
何してる？



マレーシアのスピーカーです。→P4



カンボジアのワタイです。→P2



エクアドルのゲストボです。→P8



ミャンマーのウニーです。

ミャンマーで織布・裁断・縫製を専門とする工場を営むウニーさん。従業員は現在850人、昨年より150人も増えたそうです。



ミャンマーのテット・テット・カインです。

©MYANMAR JAPON CO., LTD.



ミャンマーのゾー・ミン・ウインです。

ミャンマーに向かう機内で、現地の有力情報誌「ミャンマージャポン」の表紙を飾る帰国研修員を発見！ミャンマー商工会議所連合会会頭のゾー・ミン・ウイン氏(右)と国会議員になられたテット・テット・カイン氏(左)です。ゾー・ミン・ウイン氏は、今回の出張でも日本での研修に期待する点についてご意見をいただくことができました！

日本での研修で 素晴らしい会社と 出会いました。

ワタイさん HEANG Vattay
Sourire Pro and Art Co., Ltd
2015年JICAカンボジア日本センターカイゼン研修と
2017年度JICA企業家育成研修に参加

ワタイさんは、JICAカンボジア日本センター職員として、2015年に日本での研修に参加されました。日本的経営、特に「5S」「カイゼン」がメインテーマで、カンボジアのビジネスを担うカンボジアビジネスマンとともに、熱心に日本企業の経営者らの話を聞いていました。帰国後は、カンボジア日本センターで築いたネットワークや、日本での学びを活かして、商品のプロモーションやデザインを専門とする会社を自ら立ち上げました。彼女の夢は、若手芸術家を育成すること。「カンボジアは、旧ポル・ポト政権による大量虐殺の時代があって、失われたものが多くある。クメール芸術もその一つ。クメール芸術のアイデンティティを保持してアーティストが集まる場所を作りたい」と熱い思いを話してくれました。

今回カンボジア出張の機会に初めてワタイさんの会社を訪問しました。彼女のオフィスはとてもリラックスできる素敵な空間です。レイアウトは、2017年の日本研修で訪問した「アクロクエストテクノロジー株式会社」に大変影響を受けたと話してくれました。同社は、社員が能力を発揮できる会社をめざして様々なしくみづくりに取り組む「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」受賞企業です。ワタイさんは、同社新免玲子副社長のお話に刺激を受け、帰国後、社員が能力を発揮できるよう心を配り、オフィス内にカフェコーナーや植物を植えてゆったりできるスペースも作ったそうです。スタッフの皆さんは、自由な雰囲気の中でのびのびと働いていらっしゃるようでした。

カンボジアの若手経営者のためには、カンボジア日本センター（CJCC）でのセミナーはじめ、勉強の機会が多くあるそうです。ワタイさんは、起業家同士の早朝勉強会にも参加しているとのことでした。また経営者で「カイゼングループ」を作り「カイゼン」をテーマに相互に情報交換する場もあるそうです。やる気のある人には様々なチャンスがある。これからも若いビジネスがどんどん生まれてきそうです。（国際交流部 酒井）



ワタイさんがパッケージをデザインした
パームオイル、パームリップやマグカップ。
カンボジアのイオンで販売されているそうです。



「こんなの作りました！」商品について説明してくれているワタイさん(左)とPREX酒井

日本の会社の 指導にとっても 感謝しています。



サイさん Sai Hla Htwe
Earth Industrial(Myanmar) Co., Ltd.
2017年度関経連アセアン経営研修に参加

サイさんは、いつも笑顔で、誰からも好かれる穏やかな方です。

2017年度の関経連アセアン経営研修に参加されました。今回、私たちのミャンマー訪問で、サイさんの企業を見学させていただきました。

ヤンゴン市内から、でこぼこ道を車で約1時間、到着したサイさんの工場は、驚くほど整理整頓が行き届いた工場でした。サイさんの会社は、2012年まではミャンマーで電子部品を扱う唯一の会社であったため、JETROなど海外からの視察団が多く訪問されていたそうです。視察に訪れた日本企業のうち一社と、ジョイントベンチャーで誕生したのが今回見学させていただいた工場でした。

工場では、若い従業員の方が、狭いスペースにきっちりと座り、部品を製造したり、金属盤に印刷する作業もを見せていただきました。私語一つなく、一心不乱に作業されているのですが、その精度の高さに驚きました。工場内は、きちんと清掃されていて、「5S」「カイゼン」の掲示物があちこちにありました。社員用の研修室もあり、この日は、新入社員が研修を受けていました。

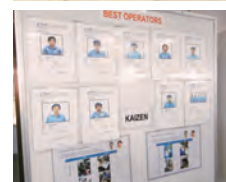
この工場には、320人が働いています。福利厚生制度も整っており、スポーツ大会や社員旅行もあるそうです。サイさんは「工場の運営は順調で、社員は満足して働いている。日本の会社の指導に大変感謝している」と話されていました。

昼食には、日本企業の駐在員の方が日ごろ食べていらっしゃる日本食のお弁当をご準備いただきました。訪問したのは5月。工場の敷地内にはマンゴーの実がたわわに実っていて、一番おいしい時期のマンゴーもいただくことができました。

(国際交流部 亀田)



工場は、カンボジアの模範的な工場として国内外から見学者が多くあるそうです。見学者の安全のために立ち入り不可の黄色いラインが引かれていました。



工場内には「5S」「カイゼン」の掲示物があり、熱心な取り組みがうかがえました。

研修の成果を 母国へ。

2017年度JICAマレーシア
中間管理職のための
指導教育研修に参加し、
帰国後のアクションプランを
発表してくれた
シヴァラン・スピーアさん。



日本の皆さん、こんにちは。マレーシアのシヴァラン・スピーアです。
2017年10月15日、私たち14名は、関西空港に到着しました。私にとっては「日が昇る国、日本」への初めての訪問でした。
このプログラムの参加者の1人に選ばれたというニュースを初めて聞いた時は、本当にうれしく、感動でいっぱいでした。1981年、マレーシアが、モハマト・マハティール氏のリーダーシップの下、ルックイースト政策を開始したのは、私が3歳の時で、学校でも家庭でも、常に日本のことを聞いたり、本で学んだりしてきたからです。マレーシアでは、近代化のモデルとして、折に触れて日本のことを知る機会がありました。日本の人々が献身的で時間を厳守することもよく聞いていました。

関西空港から神戸のJICA関西センターまでの風景が、私の日本の第一印象です。高層ビルや道路、立体交差、水のある風景が、とても美しいと感じました。この地域が20数年前に大規模な地震の被害を受け、そこから回復したとは信じられないほど、発展した状態でした。

研修プログラムは、中間管理職の能力を高めるためのもので、プロジェクトサイクル管理（PCM）や3C分析（顧客、自社、競合他社）、日本の労働哲学、日本の行政のしくみ等を学ぶものでした。

これらの手法は、マレーシアで私の組織に戻って実践することが可能だと感じました。しかし、これらの手法の背景にある無形のもの、日本人の資質や文化的側面を取り入れることには、時間がかかると感じました。

帰国後は、私自身が、周りの人々に少しでも影響を与えたいと考え行動しています。このプログラムが、将来の行政のリーダーを育てるのにとっても意味があるものだったと感じており、改めて御礼を述べたいと思います！

（マレーシア警察 シヴァラン・スピーア氏）



研修最終日。JICA、PREXスタッフとともに撮影。



マレーシアの人口は、3000万人、日本の人口は、1億3000万人ですが、日本は、路上でパトロールする警察の数が少ないです。日本は、教育の力で、国民が公共の秩序を重視していること、路上が安全であるという認識が強いということに気づきました！



帰国後の 奮闘を共有。

ミャンマーに集まってくれた帰国研修員。
同じ研修に参加した方同士で、
年に1回は集まっているとのことでした。

PREX国際交流部の酒井です。5月にミャンマー、カンボジア、マレーシアを訪ねました。1週間ほどの滞在でカウンターパートや帰国研修員35名にお会いしましたが、帰国研修員は全員が「ビジネスが好調だ」と話してくれ、各国の経済成長を肌で感じました。

アセアンの皆さんは、SNSを使われる方がほとんどで、自分のプライベートのこと、会社の事業のこと、いろいろなことをSNSに毎日のようにアップしています。メールではなかなか返事がもらえないこともある中、SNSでは一瞬で返事がもらえることもあります。私は今年の2月によりやくスマホにしたばかりなのですが、日々SNSの威力を実感しています。スマホとSNSのおかげで、帰国研修員の皆さんと、身近に連絡を取り合える、良い関係を築けています。

研修を担当するうえで大切にしていることは、研修員に日本を好きになってもらいたいということです。誰にとっても友達がいる国は、自分にとって大切な国。日本にとって日本ファンを増やすことは、大事なことだと思うからです。研修員の日本滞在中には、できるだけのことをしたいと思っています。例えば、お土産を買いに連れて行ってほしいという希望・・・これまでのリクエストでは、各種化粧品・医薬品はもちろん、福原愛ちゃんモデルの卓球ラケット、バドミントンラケット、ハーモニカ、釣竿、日本人形、中古車、炊飯器を買いたいという研修員もいました。日帰り温泉や富士山に行きたい、日本旅館に泊まりたいという希望もありました。どのエピソードも懐かしく思い出されます。

今は、日本から何かを教える時代ではありません。日本という場・ケーススタディーを通じて、自分の考えを深めてもらう研修ができればよいと考えています。そして、研修員の皆さんだけでなく、日本の皆さんにも、お役に立つ情報を提供していきたいと考えています。



カンボジアで集まってくれた帰国研修員と。カンボジア経営者企業協会連盟、カンボジア商工会議所のメンバーでお互いの会社訪問をするなど日ごろからコンタクトをとられているそうです。写真の一番手前(右)のヴァンさんは、カンボジアの繊維業界団体のトップの方です。カンボジア初の関経連アセアン経営研修の参加者で、2010年と2014年に参加されました。



マレーシアのモスク



カンボジアの街の
混雑の様子



世界の研修員を相手に うちの社員も頑張ってくれています。

株式会社山田製作所 代表取締役社長 山田 茂です。世界からの研修員の皆さんに、当社の徹底した整理、整頓、清掃と「全員で守ることを決める。決めたことを全員で守る」という企業風土を見ていただけるのは、とても名誉なことです。一番の意義は「当社の社員教育」です。社員は、研修員の皆さんに、1時間かけて当社の「3S」や「カイゼン活動」「人材育成」の取り組みを案内し、研修員からの質問に答えています。社員は、英語もロシア語も話せませんが、通訳してもらって意味が通じているのか、どう話せば伝わるのかと考え、工夫しています。お伝えしたことが、母国でどんなふうに使われているのかも気になるようです。帰国研修員の皆さんからその国ならではの苦労話を聞いてみたいです。ね。「社員みんなでトイレ掃除をしようと思ったら、社員が怒ってしまった…」とか。

(大阪府大東市：製缶板金、板金加工、プレス加工及び製缶加工から溶接、組み付け調整まで一貫加工)



訪問企業の声②株式会社Dreams

未来の子供たちのために 僕らができることのひとつ。

株式会社Dreams 代表取締役 宮平 崇です。大人になるのが楽しい社会の実現ということがDreamsの夢。シゴトの愉しさを伝えるために、小学生や中学生の職業体験や高校生・大学生のインターンシップ、障がいのある方の見学や実習など引き受けています。これまで助けていただいた恩を経営の中できちんと返していく「恩送り」も、自分が大切にしている言葉です。PREXは、「目に見えない価値」「すぐに成果がでないこと」が活動の軸です。初めて協力を依頼される企業にとっては、「無理難題」に見えるかもしれません。私も、世界のビジネスマンや行政官の方の見学の相談を受けた時は、「自分が話して役に立つのかな」と不安に思いました。でも研修員の皆さんは、うなずきながら、熱心に話を聞いてくれました。そして何より、日本の経営を世界の方にお伝えし、お役に立つということは、未来の子供たちのために僕らができることの一つだと思っています。(大阪市中央区：ポップコーンの製造および販売)



国が違っても、 人として共感できることは伝わる。

株式会社サンパック 副社長 青山祐二郎です。これまでいろいろな国を訪問し、様々な違いに驚き、新鮮に感じていましたが、しだいに「人は、国や文化が違っても、同じことに喜び、悲しみ、共感するものなのだ」と思うようになりました。PREXの研修員にも、当社の「商品開発」について、人として共感してもらえる本質の部分伝えたいと考え、経営理念や仲間を大切にすることなど、時間をかけて、どう説明するのか吟味しました。この作業は、自分自身が、当社の経営の根本にあるものを見直し、浮き彫りにする作業だったと思っています。今後の経営や人材育成に100パーセント活かせる、貴重な経験でした。研修員向けに作った資料は、社員向けの研修資料にも使えそうです。日本に来る研修員と私は、生まれた場所が異なるだけで、自分がその場所に生まれたとしてもおかしくありません。同じ人間としてフラットな関係で交流ができるのを楽しみにしています。(大阪府吹田市:家庭用品の企画開発・製造・販売)



どの国でも人材育成の悩みは同じ？ SNSで世界の経営者に聞いてみたい。

株式会社 浜田 業務部部长 末光純志です。研修でこられる方は、途上国の方とはいえ、各国の優秀な行政官やビジネスマン。人材育成やカイゼンのしくみを勉強している方が多いです。当初は人材育成の評価制度やカイゼンの方法を説明していましたが、今は具体的にどんなことをやっているか、しくみを運用するうえでの勘所を見てもらっています。当社は、アフリカへの事業展開を考えていて、研修で訪問してくれたコートジボワールの方が現地のキーパーソンになってくれそうですが、まだうまくいっていません。

PREXに帰国後も研修員と交流できるSNSがあればいいと思います。どの国でも経営の悩みは、きっと共通。例えば、人事制度なら社員が辞めてしまうとか、評価の仕方がわからないとか。そういう共通の課題を共有できる場があれば刺激があり、面白いですね。

(大阪府高槻市:産業廃棄物の分別処理を中心に、ゼロエミッションリサイクル、解体工事、各種処理装置の販売)

※所属先・役職は7月1日現在

NEWS & TOPICS

事務局のひとこと

研修員たちは、日本で何を学び、どんな気づきを得たのか？
そして帰国し、研修の成果を母国でどう活かしているのか？

私たちPREX、そして研修員を受け入れてくださった関西の企業の皆さんなど多くの人が研修員のその後を気にかけています。今号は、そんな皆さんの想いを胸に、帰国研修員の『今』を訪ねてきた模様を特集しました。懐かしい顔に出会えますよ。

ベトナム計画投資省ジャパンデスクが 日本企業の皆様をサポートします！



シン・チャオ Xin chào! (こんにちは)

ベトナム計画投資省・外国投資庁のレ・ミン・ユンです。ベトナム計画投資省・外国投資庁の中央ベトナム投資促進センターは、ジャパンデスクを通して日本企業を対象に、投資、事業進出に関する相談受付やベトナム企業との連携のサポートをしています。投資促進機関にいる日本人専門家と協力してベトナムへの投資に関するセミナーも開催しています。関心のある方はホームページをご覧ください。
※ベトナム計画投資省・外国投資庁で検索。

2016年JICA投資促進のためのキャパシティ・ディベロップメント研修(A)参加者

エクアドル・日本外交関係樹立100周年



PRO ECUADOR
INSTITUTO DE PROMOCIÓN DE
EXPORTACIONES E INVERSIONES

2017年JICA投資促進のための
キャパシティ・ディベロップメント研修(A)
参加者

ブエナス タルデス Buenas tardes! (こんにちは)
エクアドルのグスタボです。投資促進庁で働いています。帰国後は外務省や運輸省、観光省など関連機関と協力して新たに海外からの投資をエクアドルに誘致するプロジェクトを進めています。日本での研修に参加し、日本の人々が豊かな文化と遺産を世界中の市民と共有し、新しい世界を作っていると感じました。いつか日本とエクアドルの中小企業が協力して新しい技術や商品が生まれるように働きかけられればと考えています。
※エクアドル投資促進庁のホームページは、proecuadorで検索。

ニッポンのみなさん、お世話になりました！



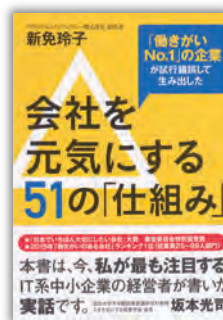
2018年JICA投資促進のためのキャパシティ・ディベロップメント研修(A)最終日。コースリーダーの後藤健太氏を囲むインドネシア、イラン、エジプト、ブラジル、エクアドル、キューバの研修員たち。

ミャンマーに行って サカイもタナカになりました!?



ミャンマーでは、多くの人々が顔に白いペイントをしています。これは「タナカ」と呼ばれるお化粧です。日焼け止めにもなるそうです。伝統芸能を楽しめる船上レストラン Karaweik Palace (カラウェイ・パレス)でタナカに挑戦!(酒井)

おススメ図書のご紹介。



2018年1月に実施した「JICA企業家育成研修」で訪問したアクロクエテクノロジー株式会社副社長 新免玲子氏の著書です。

本紙2ページで紹介したカンボジアのワタイさんは、こちらの企業でお話を聞いて、大変刺激を受け、ご自身の企業でも社員との接し方や社内レイアウトなどを実践されていました！

PREX NOW第250号(2018年9月発行)
編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事・事務局長:岡本 謙
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850
ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作:ユナイテッド・トゥモロー